

科目名	現代ファイナンス論特講	担当者	カトウ 加藤 ヨウジ 孝治	期間	通年	単位数	4
-----	-------------	-----	------------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>現代の資本主義社会では多くの企業が株式市場に上場し、自社の株価を上げ企業価値を高めることを目指している。企業業績を上げることが重要であることはいままでもないが、投資家からより良く評価してもらうために、ファイナンス論のテクニックを駆使している企業も多い。テレビや新聞などを見るときにも、ファイナンス論の知識を持っていることで、企業行動をより深く理解できるようになるだろう。</p> <p>現代ファイナンス論を履修し、現代社会の中で起こっている企業行動を、より深い（財務的な）切り口で見ることができるようになることを講義の目的とする。</p>		
到達目標	<p>今や、ファイナンス理論はビジネスにおける共通言語の一つである。幅広く基本的な考え方を理解することを目標とする。ファイナンス理論は専門用語が多いため、それを知っただけでマスターできたように思ってしまうが、大事なことは実際の社会の中でどのように活用されているかをイメージできることにある。理論を修得したうえで、自ら具体的なビジネスシーンの中で使われている状況が具体的に浮かべられるように、使いこなせるようになることが到達目標である。</p>		
学修方法	<p>レポート課題の答えは、教材の中にそのまま書いてあるわけではない。ただし、教材を理解せずに答えを導き出すことはできない。教材の内容を理解し、その知識・考え方に基づき、自ら対象事例、対象企業を探して考えるようにしてほしい。</p> <p>調べる方法は、教材以外の本を読む、対象企業が公表している資料を見る、関係のありそうな雑誌記事／インターネット記事などを探索するなどの手段のほか、関係のありそうな論文、総合研究所のレポートなども幅広く探してほしい。いろいろな方法にトライし、いろいろな材料を比較しながら、自分の考えを提示するようにすることが望まれる。</p>		
スケジュール	<p>① 提出期限までに何度かレポートを使って、考え方を確認・交換する必要があるため、最低でも前後期とも課題提出期限1か月前までには初回提出をすること。</p> <p>② 受講開始後、課題へのアプローチ方法がわからず、早めの時期に課題提出できない場合には、効率的に学習に取り組むために、レポート作成に必要な質問をメールあるいは添削システムを使って連絡することも受け付ける。レポート作成前に、課題取組方針のすり合わせを行うことは望ましいことである。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	①教材の内容を修得し、その考えを踏まえて解答されているか ②自分の独自の考えを、相手に伝わるように解答できているか ③教材以外の資料を活用して解答しているか（加点項目）
	平常評価	20%	①最終提出までに複数回のレポート交換ができているか ②途中稿提出期限（最終提出1か月前）が守れているか
履修者への要望	<p>グローバル経営（MBA）部門のコア5科目の一つであり、他の科目（グローバル経営戦略論特講、アカウントング論特講、マーケティング論特講、人材マネジメント論特講）と合わせて履修することが望ましい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名： グロービス経営大学院 教材名： 『[新版]グロービスMBAファイナンス』(ダイヤモンド社, 2009年) ISBN:978-4-47-800876-8 2,800円+税</p> <p>著者名： 手島直樹 教材名： 『まだ「ファイナンス理論」を使いますか?』(日本経済新聞出版社, 2012年) ISBN:978-4-53-231829-1 1,800円+税</p> <p>前期はファイナンス理論の基本的なフレームワークの整理を行うことを目指す。ファイナンス理論はビジネスシーンだけでなく新聞などを読むに当たっても意外と多くの場面で使われているが、その一方で誤った理解に基づき使われているケースも多い。上段教材で基本的な概念を習得したうえで、下段教材では常識に囚われない「正しい使い方」を理解できるようにしたい。</p>
参考図書	<p>小田切宏之 『企業経済学 第2版』(東洋経済新報社, 2010年) ISBN:978-4-49-281301-0 3,200円+税</p> <p>ロバート・C・ヒギンズ(グロービス・マネジメント・インスティテュート訳) 『[新版]ファイナンシャル・マネジメント』(ダイヤモンド社, 2002年) ISBN:978-4-47-847059-6 4,400円+税</p>
履修上のポイント	<p>前期の教材は比較的平易なものでファイナンス論の基礎の修得を狙った。課題に対しては、基礎的な考えを修得したうえで、個別企業がとっている財務行動を調べて具体的に解答することに取り組んでほしい。</p> <p>もう一段の理解を深めたい場合に参考図書を活用する。『企業経済学』はファイナンスの教科書ではないが、財務理論を企業組織の中で具体的に活用する方法を考える上で役に立つ。</p>
レポート課題 1	<p>教材(1)を読み、日本産業の現状を踏まえて、どの産業のどのような企業がM&Aのターゲットになりやすいと考えられるかを説明すること。</p> <p>留意点: 基本的な概念である企業価値の算出のプロセスを踏まえ、具体的な事例を一つ以上盛り込み、説明対象となる産業・企業のファンダメンタルズに着目して説明することがポイント。</p>
レポート課題 2	<p>教材(2)で筆者が提示する「理論と現実のギャップ」あるいは「誤解」に関して、どのように考えるかを論述すること。</p> <p>留意点: 必ずしも筆者と同じ意見である必要はない。批判的な立場で考えを示すことも望ましい。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名： 砂川伸幸, 川北英隆, 杉浦秀徳, 佐藤淑子 教材名： 『経営戦略とコーポレートファイナンス』(日本経済新聞出版社, 2013年) ISBN:978-4-53-213441-9 3,200円+税</p> <p>著者名： マッキンゼー・アンド・カンパニー/ティム・コラー他(本田桂子/鈴木一功訳) 教材名： 『企業価値経営—コーポレート・ファイナンスの4つの原則』 (ダイヤモンド社, 2012年) ISBN:978-4-47-801798-2 2,400円+税</p> <p>上段教材は日本企業の中でファイナンス理論に基づく企業行動がとられた最近の事例。下段教材ではマッキンゼーが「企業価値測定に係る4つの原則」を整理しているのので、この考えに基づいた企業行動の整理と利用方法を理解する</p>
参考図書	<p>砂川伸幸, 川北英隆, 杉浦秀徳 『日本企業のコーポレートファイナンス』(日本経済新聞出版社, 2008年) ISBN:978-4-53-213345-0 3,200円+税</p> <p>刈谷武昭, 山本大輔『入門 リアル・オプション』(東洋経済新報社, 2001年) ISBN:978-4-49-260098-6 2,400円+税</p> <p>大垣尚司『ストラクチャード・ファイナンス入門』(日本経済新聞出版社, 1997年) ISBN:978-4-53-213142-5 3,800円+税</p> <p>笹山幸嗣, 村岡香奈子『M&Aファイナンス 第2版』(金融財政事情研究会, 2008年) ISBN:978-4-32-211301-3 3,800円+税</p>
履修上のポイント	<p>「ファイナンス論」履修の目的は、実際の経済行動・企業行動の中で利用されている状態をイメージすることにある。教材は具体的な事例と理論との橋渡しをしている。各自、一步踏み込んだレポート作成に取り組んでほしい。なお、課題作成に当たり、具体的知識を必要とする場合のために、実務経験のある専門家がまとめた資料を参考図書であげたので活用してほしい。</p>
レポート課題 1	<p>教材で説明されている日本企業の一社を選択し、その財務行動に関する「その後の動向」を説明しなさい。</p> <p>留意点: 説明は対象企業のテキスト記載の「財務行動」の特徴をまとめたうえで、その後、数年を経てどのような結果となったかを、自ら各社のホームページ、上場有価証券報告書のほか、経済雑誌などを利用し調べてコメントする。その際に比較対象となる企業を示すとわかりやすい。</p>
レポート課題 2	<p>M&Aによって企業価値が創造されるプロセスを、教材にあるマッキンゼーの考える「コーポレート・ファイナンスの4つの原則」に沿って論述すること。</p> <p>留意点: 説明に当たっては、最近の企業買収の事例を踏まえつつ説明すること。</p>